

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

| | | | |
|--|----------------------|------|---------|
| 大学・短期大学名 | 名古屋大学 | 整理番号 | 1-2-055 |
| 応募テーマ | 主として教育課程の工夫改善に関するテーマ | | |
| 取組名称 | 創成型工学教育支援プログラム | | |
| 申請単位 | 学部単位 | | |
| 申請担当者 | 平野 眞一 | | |
| <p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、学生自らが課題を発見し、多様な視点からその本質を見極め、幅広い専門知識を統合して解を見出す能力を涵養する「創成教育」を、学部から大学院に亘るそれぞれの段階に応じたカリキュラムを立案し実施することを内容とするものである。学部では、「手引き書のない学生実験」、「卵落とし」などの創成型（デザイン型）科目を企画実施し、課題を発見できる資質としての創造性と、科目ごとの専門知識を統合して活用することができる総合性を涵養するための教育を行ってきた。一方、大学院では、「高度相互工学創造実験」のなかで、企業から招いたディレクティングプロフェッサー（非常勤講師）が授業の企画から実施・評価に至るまでの教育全般に直接関与し、専攻、研究科、大学を越えた異分野の学生が、現実の社会問題にかかる課題を設定し実験を進める教育を行ってきた。これら一連の取組は、社会が要請する主体的・創造的に問題探求・解決にあたることのできる実践的な人材の育成に資するものであり、学外からも高く評価されている。</p> | | | |
| <p>(採択理由)</p> <p>名古屋大学工学部・工学研究科では、キャッチアップ型社会からフロントランナー型社会に転換した我が国で必要とされる、独創性・総合性を備えた人材の育成を目指した先導的な工学教育を、学部・研究科を挙げて推進しています。他大学・研究科・社会人からの受講者受入などという新しい方式も取り入れながら創成型工学教育を進めているところに特色があり、「手引き書のない大実験」のような具体的な実績も積まれています。時代をリードする人材を社会に送り出そうとする意欲が感じられ、高く評価できます。</p> <p>学部内での支援体制及び全学的な支援体制は整っており、財政的な支援も行われています。教育到達度に関する組織的な測定や評価は未だ行われていませんが、現在検討中だと思われれます。</p> <p>明確な理念のもとに我が国における先導的な工学教育がなされており、すでに実績も積まれている、社会からの評価も高く、他の大学の参考になる優れたモデルであると思われれます。</p> | | | |